



## 003\_Nyorai and Houju

隠された 創業者の「決意表明と目標達成」のストーリー

2023年10月改訂 春日

MfG\_J\_pair\_dragons\_in\_saffron\_の一部を改変

- ① 鰻絵蔵の美
- ② 鰻絵の色（何故、この青）
- ③ その他、鰻絵蔵の見どころ

- ④ 何か、隠されていませんか  
（何か、求めていく、大切なもの）
- ⑤ 何か、隠されていませんか  
（何かに対する、祈りと感謝）

## 隠された 創業者の「決意表明と目標達成」のストーリー

### 祈りと感謝

- ・自身、吉澤家の商売成功・家運隆昌への祈りと、  
達成への感謝
- ・訪問する顧客、周辺住民への感謝の心、喜ばせる心

このために、双龍、鬼瓦、四神・四霊、十二支、さらに「魔除け・招福」とありとあらゆるものを持ち込んだ。

娯楽、激励への喜び

驚き・美の堪能

謎解きの楽しさ

祈りと感謝の発見

鰻絵だけでなく、  
不思議な庭園、  
離れ座敷にも

サフラン酒では、まず『美』で驚かせ。  
次に、ありとあらゆる『謎解き』満載。

裏に『祈りと感謝』があるように思えます。

# 1. いくつかの双龍、「昇り龍と降り龍」、 そして宝珠

右図は、かつて通用門の脇に立っていた  
巨大な木彫の「大看板」の一部です。

中央部の大きさは 6.40mx1.94m。

(今は、道具蔵に横たわっています。)

明治44年作の「昇り龍と降り龍」は、  
サフラン酒本舗の屋敷の中で、鬼瓦を  
除いて、恐らく最初の双龍です。



## 建物の建造にも、段階的な祈りと感謝

1) 主屋建造、増築当時～明治27年(1894)、大正2年(1913)  
鬼瓦に据えた龍に託した、守護神、火防が中心

2) 衣装蔵建造～鍔絵蔵建造 大正5年-15年(1916-1926)  
地域安寧、五穀豊穰、商売繁盛、子孫繁栄を祈る道具立て

3) 離れ、庭園建造～昭和6年(1931)  
家業が繁栄してきたことから、魔除け招福、祈りと感謝

## サフラン酒本舗のメインテーマは何か



商品ポスター、そして  
商品パッケージの  
「二頭の龍と握る球」

薬師如来の象徴である  
「宝珠を求め浄土を目指す  
昇り龍と、それを手に入れ  
下界に戻る降り龍」です。

# サフラン酒の随所に、「双龍」と「宝珠」





## もうひとつ、離れ座敷の二階 手摺りの宝珠



美しい曲面彫りの宝珠です。  
手摺りを欄干に見立てた、装飾の  
擬宝珠とも見えますが、単なる装飾  
以上に、訴えてきます。  
「大看板」の龍、昇り龍・降り龍が  
求め、獲得し、人々に幸せを施す  
宝珠も意図したと思います。

薬師如来、坐像台座の アトリビュート	機那サフラン酒本舗の装飾
昇り龍と降り龍の双龍 宝珠	鬼瓦、鋳絵蔵の軒下の双龍 鋳絵蔵の軒下の宝珠 離れ座敷二階の手摺り彫刻
葡萄唐草文様と四神	鋳絵蔵の外側
蕃人(ばんじん)	大看板の力士、十二支
葡萄唐草文様	鋳絵蔵

龍については、近代建築史の藤森先生は、30年以上前に  
訪問されて、数えておられました

龍が38 鬼瓦の大きな建物8棟として  $8*2*2 = 32$   
その他、池の噴水、離れの屏風...

鯉が10 衣裳蔵に二匹、コレクションの鯉仙人、  
その他、池に大きな鯉...

藤森照信, "サフラン酒の蔵", 季刊銀花, 第64号(文化出版局1984)

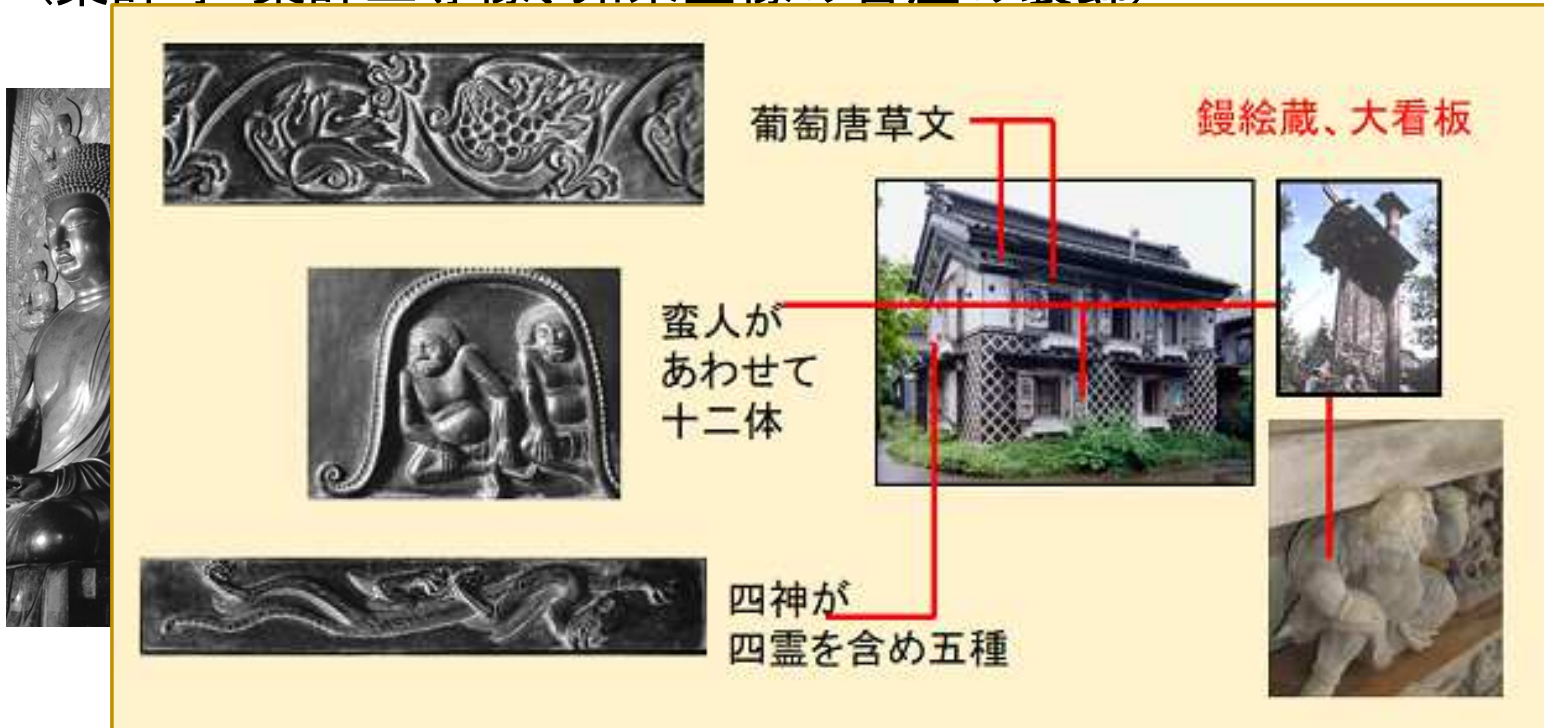
# サフラン酒の随所に、「双龍」と「宝珠」（薬師如来）



ちょっと飛躍しますが・・・

# 薬師如来台座の装飾

(薬師寺・薬師三尊像、如来坐像の台座の装飾)



鍔絵蔵の装飾として、仁太郎さんが、薬師如来を荘厳する台座を意識したとしか、思えませんが、どうでしょうか。

# 鰻絵の創作の根源は？



幕末の木彫りの名匠・石川雲蝶の手になる、見事な「仁王像、そして道元と猛虎の大彫刻」が魚沼・西福寺に納められました。(施主は方丈の大瀧和尚)

今から百年前、長岡の片田舎で薬種製造を生業とした仁太郎さん、原料搬入や酒作りの繁忙期には、周辺の村人の手を借りざるを得なかったでしょう。村と一緒になければ、事業は成り立たない。そんな時代です。

たびたびの冷夏や洪水に悩まされつつ、農業に精出す周辺住民に、

頑張っている近隣の住民に、  
『鰻絵』で、励ましと元気づけをしたい。  
～ 魚沼・西福寺の巨大彫刻と同じでは



～ 共同体を守り、感謝する精神、今風にいえば、「町づくり、村づくりの心」かも知れません。

いろいろな見方を楽しんでいただけたらと、  
存じます。

それこそが、創業者の思いだったのでは、  
と思うのです。



本当は、もっと説明したかったのですが、  
残りは、後で。

質問があれば、お聞きしますが、  
現地ツアーのなかでも、受け付けます。  
お話ししましょう。

